

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容「話し合いの内容を聞き取る」：全国平均－6.9 ・問題の内容「漢字を書く」：全国平均－3.5 ・領域「話すこと・聞くこと」全国平均－6.9 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の接続詞に着目し、意味や役割について復習しながら授業を展開していく。 ・文章の構成、要旨をつかみ文章を書く機会を増やしていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習学習の内容を復習する時間をスキルタイムに確保し、前学年の内容も含めて振り返れるよう学習を進める。 ・読書タイムにより、読書の時間を確保する。 ・週末の課題として「毎週作文」を課す。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎週作文で原稿用紙 200 字程度の文章を書き、それらを読み合いコメントすることで、文章の書き方や表現を学び合わせる。さらに使用する漢字数を指定して、漢字の活用能力を高める。 ②スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。 ③グループトークや朝のスピーチを取り入れる。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎週作文の記録から検証する。 ②プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。 ③スピーチおよびスピーチ原稿、ノートから検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>文章を書く力、漢字の活用能力が向上した。お互いで読み合う中で、表現力や語彙力の学びアイにもつながった。</p> <p><課題></p> <p>叙述などに即した読解力を身に付ける必要がある。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落構成を考えてから文章かせること。 ・感想が一律の表現にならないように指導すること。 ・文字は大きく、濃く、丁寧に書くことを意識させること。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたり考えたりしたことを表現豊かに文章化できる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体：全国平均－1.3 ・問題の内容「日本の国土と人々の暮らし」：全国平均－3.0 ・問題の内容「自動車をつくる工業」：全国平均－6.7 ・領域「国土の自然環境と国民生活」：全国平均－3.7 ・観点「主体的に学習に取り組む態度」：全国平均－3.1 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習学習を振り返り、学習したことを確認する。 ・地図帳や統計などの基本的資料を用いて、根拠や理由を明確にして議論する力の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習計画の見直しをもたせ、学び方を理解させるために、ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。 ・歴史領域において、歴史的背景を理解させる学習内容とする。 ・政治領域において、小笠原の議会・役場・施設を課題として調べて解決する学習内容とする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。 ②歴史領域において、歴史を動かしてきた人物になって、自分ならどう判断したか考えさせながら学習を進める。 ③スキルタイムを使って、既習の学習内容を復習する時間を確保する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ノートやミライシート等の進捗や達成状況を検証する。 ②ノートやプリントの進捗や達成状況を検証する。 ③プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の人物や事件に対する興味・関心が深くなり、時代ごとの背景を理解していた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の政治や近代日本の歩みや、今の政治の課題や問題について、自分事としてとらえきれていない。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容が多く、課題解決の時間を取り過ぎると授業進度が間に合わなくなる。課題解決としての重点单元などを設定して授業づくりをする必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治に興味をもち、法律や選挙など現在の時事について考えや意見がもてる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容「分数と小数」：全国平均－2.9 ・問題の内容「円グラフや帯グラフ・平均」：全国平均－11.2 ・領域「データの活用」：全国平均－19.7 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや考えを高めたりするために、数学的表現で説明できるようにさせる。 ・既習事項の振り返りを多く設定し、四則計算の基礎学力の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイム：既習学習の内容を復習する時間を確保する。 ・ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。 ・生活の中のをテーマにしてデータを収集し、グラフを作成して分かることや傾向などを読み取る活動を実施する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①スキルタイムを利用して、基礎的学習内容の反復や、課題のある学習を復習する時間を確保する。</p> <p>②ICT機器を使い、イラストやアニメーション効果を用いて、視覚的に問題場面を捉えやすくするようにスライドを作成し、授業の中で活用する。</p> <p>③自力解決につなげるペアやグループ学習の時間を設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする</p>	<p><検証方法></p> <p>①プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。</p> <p>②ノートやミライシード等の進捗や達成状況を検証する。</p> <p>③ノートの「自分の考え」や「振り返り」、立式などから進捗や達成状況を検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形領域においては、ICT機器を活用し、視覚的に捉えることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明するために、具体物を用意していたが適切な言葉が見つからず、「これが」などの説明になっていた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高めていく必要がある。そのために必要に応じて辞書やパソコンをする必要がある。 ・高学年になると、受験を考える児童と基礎基本の学力の定着を図る児童が一斉授業の中に混在している。これらを解決するために、ICT機器を用いて、個別最適な学びの実現を図っていく。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教わっていないからわからないという受け身から、わからないからこそ知りたいと自分から学ぶことができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 理科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容「植物の発芽と成長」：全国平均－3.9 ・問題の内容「植物の花のつくりと実」：全国平均－6.7 ・問題の内容「流れる水のはたらき」：全国平均－8.1 ・問題の内容「ふりきのきまり」：全国平均－7.8 ・問題の内容「けんび鏡の使い方」：全国平均－3.6 ・観点「知識・技能」：全国平均－4.7 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象を提示し、自然の中で関心や意欲を高め、そこから問題意識をもたせ、主体的に追究する意図的な活動の場を設ける。 ・遠足や移動教室など自然に触れ合う体験学習を積極的に活用する。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習の流れに沿って、意欲的に課題とかかわり考えていくようにする。 ・スキルタイムを利用して、基礎的学習内容の反復や、課題のある内容を復習する時間を確保する。 ・ICT機器を使った学習補充を行う。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。</p> <p>②スキルタイムを利用して、単元末の学習内容を整理・復習する時間を確保する。</p> <p>③ICT機器を使って図や写真、グラフなどを提示し、授業の中で活用する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を検証する</p> <p>②プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。</p> <p>③ノートやミライシード等の進捗や達成状況を検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。</p> <p>②スキルタイムを利用して、単元末の学習内容を整理・復習する時間を確保する。</p> <p>③ICT機器を使って図や写真、グラフなどを提示し、授業の中で活用する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を検証する</p> <p>②プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。</p> <p>③ノートやミライシード等の進捗や達成状況を検証する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。</p> <p>②スキルタイムを利用して、単元末の学習内容を整理・復習する時間を確保する。</p> <p>③ICT機器を使って図や写真、グラフなどを提示し、授業の中で活用する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を検証する</p> <p>②プリントやドリルの進捗や達成状況を検証する。</p> <p>③ノートやミライシード等の進捗や達成状況を検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる予想、実験、話し合いの様子が意欲的、活発になった。問題を主体的に捉えて解決に向けて作業できるようになってきた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に予想・考察場面で文章化が難しい児童がいた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見や考えを参考にして、深められるような場を意図的にもたせること。 ・イメージ図を用いるなど、考えを文章化することが難しい児童も発信できる工夫をすること。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見出し、主体的に問題解決するための予想や考察がしっかり表現できる児童 			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・響きのある歌声で、周りの歌声や伴奏を聴きながら声を合わせて歌うことや、音色や響きに気を付け、音を合わせて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び歌等を通して聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える。 ・わらべ歌等、短い旋律の教材を通して自然で無理のない歌い方を身に付ける。 ・フラッシュカードやスライド等を活用し、表現活動と結びつけながら意味や使い方を覚える。 ・表現に必要な技能を個別に見取る機会を設け、支援が必要な児童については特に丁寧に指導する。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。 ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。 ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いたり楽譜を見たりして気付いたことを考え、意見交流する場面を多く設けたことで、曲の特徴に対する理解が深まった。 ・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、技能を高めることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴について理解したことを生かし、表現を工夫する力が十分身に付いていない。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴について気付いたことや、どのように表現したいかという思いはあるが、表現の工夫に繋がりにくいため、発問や授業構成を工夫する必要がある。 ・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択や題材計画に軽重を付ける等の工夫をしたり、個別指導を重点的に行ったりする必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。 ・表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。 ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。 ・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方などを紹介する。 ・材料や道具などの使い方や工夫できるところや組み合わせでできることなどを確認する。 ・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用して確認する。 ・児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。</p> <p>②ワークシートを活用しての活動の手順を計画したり、アイデアを広げたりする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</p> <p>②児童や作品、ワークシートの観察。全児童がある程度の見通しを持ちながら、自分なりに計画やアイデアを実現できるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①全ての児童が材料や道具を正しく扱え、自分なりの工夫をして表現できた。</p> <p>②全ての児童が見通しを持ちながら、自分なりに計画やアイデアを実現できた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材によって造形的な深まりに差がある。絵画は苦手だが、粘土だと表現しやすく創造性が高まる等、素材や道具によって主体性がそがれないよう、意欲を高める指導をしていく。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律への意識の継続と向上。学習ルールの徹底し、安全確認を常に行い、事故のないようにする。 ・ねらいを焦点化し、児童の主体性を生かしながら、協働的な制作の場を増やす。ICT機器を活用し、見取りや評価を迅速にし、個別最適化を目指し、きめ細やかな指導をする。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解し、創造的につくったり表したりすることができる児童 ・創造的に発想や構想をし、自分の見方や感じ方を深めたりすることができる児童 ・主体的に形や色等に関し豊かな生活を創造しようとする児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習では、自分の生活で実践することを通して、知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・ミシン操作に苦手意識をもつ生徒は、半数以上いる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活から課題を見出し、その解決に向けて方法を考えることに苦手意識を感じたり、諦めてしまったりする児童が多いため、いくつかの例や見本を見せて考えのヒントにさせる。 ・ミシン操作をする際には、見本の動画を学習者端末で見てから操作するようにする。また、2人ペアで練習させることとし、学習意欲を損なわないようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 单元ごとに、「新しい疑問」や「生活で困っていること」を考えさせる機会を作る。その疑問を児童同士で共有することによって、生活の中から課題を見出すことに慣れさせる。</p> <p>② 動画は一人一台の学習者用端末で見ることとし、自分のタイミングで見られるようにする。また、ペアで操作を行うことで、分からないことを互いに聞ける環境を作る。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 学期ごとの課題解決レポートで行う。 单元ごとに考えた「新しい疑問」や「生活で困っていること」から、解決したいものを選び、解決のための調べ学習を行う。</p> <p>② 実技テストで行う。テストの機会は数回設け、自分自身で自信をつけながら学ぶことができるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシン操作に苦手意識を感じる生徒が減った。 ・ペア活動は、児童同士がきき合いやすい環境にあり、主体的に学ぶ姿勢が多く見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見のレベルに個人差が大きく見られた。 ・ミシンのペア活動は、進度が遅れる。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの題材について、児童の実態とペア活動を踏まえたものに変更する必要がある。 ・課題解決学習はグループ活動から行うことで、スモールステップを踏む。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見出し主体的に問題解決するための予想や解決方法の考察ができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習で安全に配慮はできているが、自分の身体の動きや伝達、調整力について考えて動けている児童は2割程度である。 ・ボール運動では、ルールを理解した上でボールを持っていない時の位置取りや動作など、周囲を見たり先を考えたりして動ける児童は1割程度である。 ・心と身体について、身近な内容であることから学習意欲は高い。学習意欲が低い児童の特徴として、保健の学習に抵抗を感じている。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心と体との密接な関係にあることを自己の経験と学習したことを関連付けさせる。 ・心の健康を維持するために、日常的に個別面談を行い、個に応じた対処方法を説明していく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技や種目の特徴やルールをしっかりと理解する。 ・学習カードを使って学習の見通しをもち、振り返る時間を確保する。 ・ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①学習カードを使って、毎時間の振り返りや次回のめあてを考えさせ主体的に取り組めるようにする。</p> <p>②ICT機器を使用して、競技や種目の技能ポイントを調べたり、お互いの動作を記録したりして、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①学習カードの進捗や達成状況を検証する。</p> <p>②行動の様子やグループの話し合い、声掛けの様子などを記録して検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTや学習カードを使うことで、技能ポイントや課題とする場面を明確に認識できるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループによる活発な教え合いが見られなかった。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいフォームに修正できるように、ICT機器を使ったり教え合ったりする場面を工夫する必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使って児童の活動を撮影し、友達と比較しながら課題を把握・改善できる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童によって学習意欲に差がある。意識の低い児童が2割程度いる。 ・アルファベットを正しく書けない児童が3割程度いる。また、大文字小文字の使い分けや書き方についての理解は不十分である。 ・スピーキングとリスニングを苦手とする児童が3割程度いる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールトークで簡単な語句や基本的な表現について理解させ、身近で簡単な事柄を聞き取る技能の定着を図る。 ・外国語の背景にある文化の理解を深めるために、ALTとの交流を通して文化の理解を深める。また、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う機会を増やす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーを交えて、会話と連動させる。 ・スキルタイムを利用して、アルファベットの小文字・大文字の書字など基礎的学習内容の反復や、課題のある内容を復習する時間を確保する。 ・ICT機器を使った学習補充を行う。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ジェスチャーなどの動きを合わせて会話することで、お互いのコミュニケーションを分かりやすくする。 ②スキルタイムを利用して、アルファベットの大文字・小文字の書字など基礎的学習内容を反復する時間を確保する。 ③ICT機器を使って、会話の場面をイメージしやすくする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スピーチや会話の行動観察の様子などを記録して検証する。 ②テキストやミライシード等の進捗や達成状況を検証する。 ③テキストや行動観察から、進捗や達成状況を検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽やダンスなどで体を使いながら発生することで無理なく、発生することができていた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の発音。単語の意味などの理解が乏しく、はっきり声を出して会話に応答することができない児童がいた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと担任とのTT指導の中で、日本語としての意味なども解説しながら進めていく必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語に興味をもち積極的に会話しようとする児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容が実生活につながっていない児童が2割程度いる。 ・場面の課題を受けて、自分の考えやよりよい行動を書けない児童が1割程度いる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律的に判断する活動を取り入れ、自主的な行動をする上で、自由と自分勝手との違いに気付かせる。 ・自主的な行動を尊重し、自由な考え方や行動のもつ意味やその大切さを実感できる機会を増やす。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やイラストを用意して場面を捉えやすくし、考えられるようにする。 ・実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして内容と生活課題を結びつけていく。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①人物の態度や表情、周囲の様子などが分かるようなイラストを提示して注視させることで、場面を捉えやすくし、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>②実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして課題と結びつけ、自分事として臨めるようにする</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p> <p>②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やイラストを用いたり、身近な話題に置き換えたりすることで、道徳的な心情を深めて考えることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言者に偏りが多く、友達の意見や考えに流される児童がいた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値に気付き、判断・行動できる実践態度を養っていくために、身近な事柄を教材化するなどして研究を深めていく。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに対する根拠をもち、他者の意見にも耳を傾けることができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題として捉え、意欲的に探究する意欲が低い児童が1割程度いる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タコの葉の体験的学習、校外学習を通して、よりよい郷土の創生に関わっていることを理解させる。 ・地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々との関わりの中で、追究課題を設定させ、よりよい解決に向けて地域社会で行動できる態度を養う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ探究的な学習を展開する。 ・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ発信する探究的な学習を展開する。</p> <p>②学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p> <p>②ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ発信する探究的な学習を展開する。</p> <p>②学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p> <p>②ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p>
<p><方策></p> <p>①外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ発信する探究的な学習を展開する。</p> <p>②学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p> <p>②ワークシートと作成した発表資料の内容から、進捗や達成状況を検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使った調べ学習、まとめ学習、スライドを作成して発信する力などが身に付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な探究活動として、興味・関心の深さや、ICT活用能力、表現力などの場面で個人差があった。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライド作成のスキルを身に付けさせるために、情報教育の時間を確保しておく。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に課題と関わり探究できる児童 			